



プラスチックのパイオニア

フェノールの夢、100年

3人の男たちの親交が

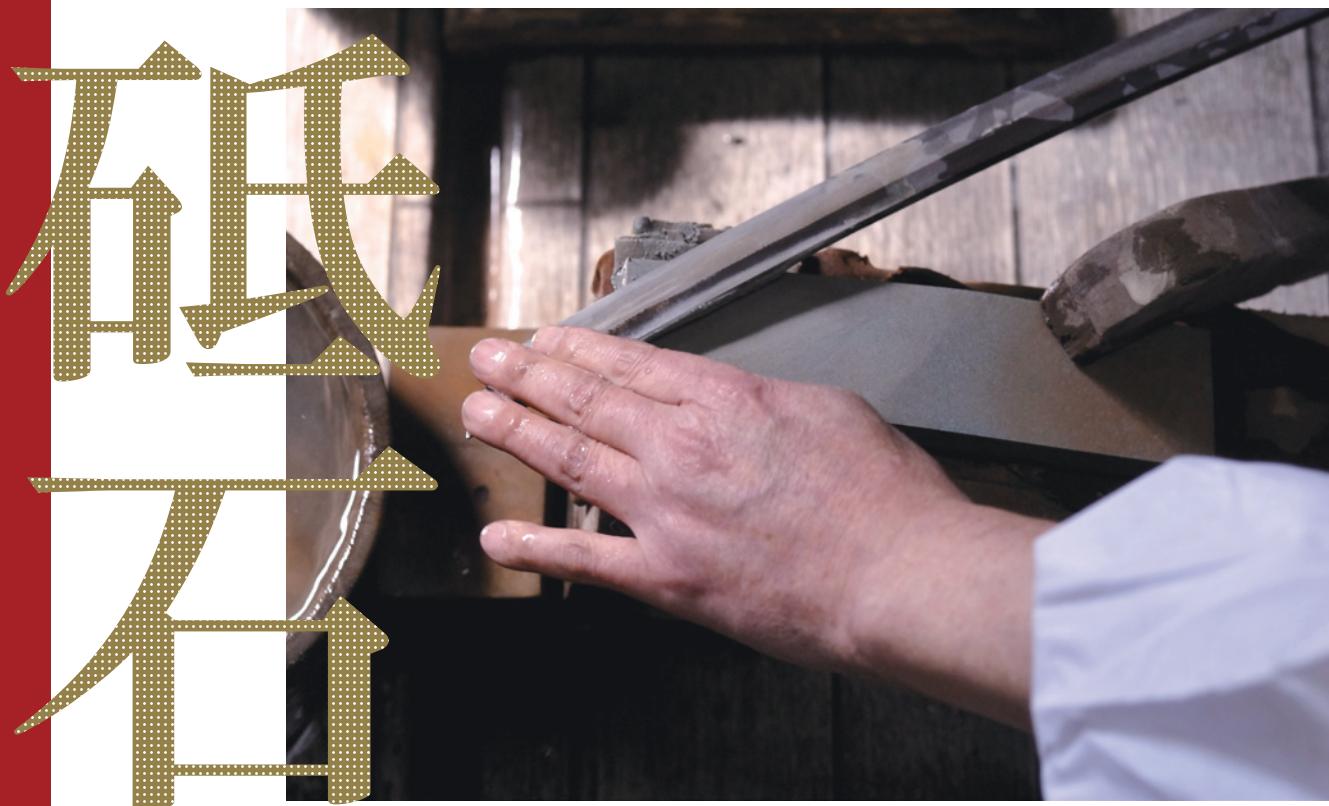
実現させた、日本での製造開始

日本国内でのフェノール樹脂の製造は、1911年（明治44）に三共合資会社の工場で試作されたことに始まる。三共の創始者である塩原又策と、タカジアスターとアドレナリンなどで知られる高峰謙吉との親交があり、また高峰と開発者バークランドが友人だったことから実現した、友情が取り結んだ縁でした。

歴史小説を得意とした吉川英治に文句をつけたのが、新潟県三条出身の冶金学の権威で、研師の腕も持っていた岩崎航介。当時の新聞連載小説『宮本武蔵』の中で、決闘後に日本刀の手入れを依頼しない武蔵の描写に疑問を投げかけたそうです。刃物をつくる刀鍛冶がいて、それを活かし維持し続けるのがプロの研師の役割。研師たちは、粗さの異なる天然砥石を使い分けて、刃を磨きあげました。これに對して、誰にでも使えるように工夫されたのが人造砥石。その手軽さから人造砥石は、またたく間に普及しました。この決め手となつたのは、耐薬品性、耐熱性、強度に優るフェノール樹脂を結合剤に使い、砥粒を焼き固める技術。それはバークライト法とも呼ばれ、いわば“再生の匠”的研師に代わる技術として、磨きに威力を發揮しています。

## “再生の匠” の技を再現した、人造砥石

日本の知恵、  
プラスチックの知恵



プラスチックのパイオニア

 住友バークライト株式会社

<http://www.sumibe.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル TEL:03-5462-4170 FAX:03-5462-4892